

つなプロ 活動レポート (2011年3月17日～5月1日)



被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

のべ378人のボランティアが計33日間に、宮城県内443か所の避難所を計965回巡回訪問しました



■「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)とは

仙台・東京・関西を中心とした全国各地のNPOネットワークとして3月14日に発足した「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)は、のべ378人のボランティアを宮城県に派遣し、443か所の避難所を、3月29日から5週に渡って巡回訪問、避難所の実態把握のためのアセスメントを実施しました。アセスメントによって判明したニーズや課題を、地域内での支援の取り組みや、介護、医療、障害者・外国人・難病患者支援など専門性を持つNPOとマッチングすることで解決を進めています。

ミッション : 避難先でのこれ以上の死者、状況悪化者を出さない

活動定義 : そのために避難所での課題・困りごとを「発見」し、専門NPO・限定物資・疎開先などと「つなげる」こと

つなプロの基本3原則:

- 1)被災地・被災者が主役の復興を支え続けよう
- 2)避難先のくらしを、少しでも心地よくできるよう、支えよう
- 3)緊急対応だけでなく、しくみづくりを心がけよう

■幹事団体

(特)せんだい・みやぎNPOセンター、(般財)ダイバーシティ研究所(DECO)、
IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]、スペシャルサポートネット(SSN)関西、(特)ETIC.、(公財)日本財団

■実施スケジュール

- ・3月17日(木)～3月28日(月):先遣隊による事前アセスメント、アセスメントシートの作成、避難所および地域での関係づくり
- ・3月29日(火)～4月17日(日):毎週80～100名程度のボランティアによる、避難所の巡回訪問とアセスメント、
現地および東京などの支援団体・機関と随時マッチング(3週間)
- ・4月19日(火)～5月1日(日) :毎週30～50名程度のボランティアによる巡回訪問・マッチングの継続と、
10程度の避難所での継続的な支援(自宅避難者の訪問を含む)の試験的实施

■詳細/ウェブサイト <http://blog.canpan.info/tsunapro/>

■分析実施 RCF災害支援チーム

5週間にわたって22の市区町村の避難所を巡回、505件のニーズを発見



期間	ボランティア数	巡回避難所数	ニーズ数	巡回エリア
先遣隊 (3月17日～3月28日)	6名		8件	塩竈市、岩沼市、気仙沼市、山元町、七ヶ浜町、女川町、松島町、石巻市、仙台市宮城野区、仙台市若林区、仙台市青葉区、仙台市太白区、多賀城市、大崎市、登米市、東松島市、南三陸町、美里町、名取市、湧谷町、利府町、亶理町の合計22エリア
第1期 (3月29日～4月3日)	76名	310か所	62件	
第2期 (4月4日～4月10日)	103名	219か所	168件	
第3期 (4月11日～4月17日)	119名	207か所	131件	
第4期 (4月18日～4月24日)	29名	114か所	62件	
第5期 (4月25日～5月1日)	51名	115か所	74件	
合計	378名	965か所	505件 うち対象内*232件	

ステータス	対象内	対象外	総計
マッチング先 対応完了	45	20	65
マッチング先 引受中	49	1	50
マッチング先探索・調整中	55	3	58
要詳細確認	24	136	160
対応停止	59	98	157
総計	232	273	505

* ヒアリングしたニーズのうち、つなプロとして取り組むべきだと考える特別なニーズを対象内として抽出、優先的にマッチングに取り組みました。

現地活動の様子



1日目は全体オリエンテーションを実施



各地から集まったボランティア



ある避難所の様子



避難所の管理者へアセスメント



毎日、ふりかえりを実施



データベースにアセスメント情報を入力



毎朝出発前に確認ミーティング



次週のチームへの申し送り



仙台市での宿泊場所・香林寺



即応のため事務所に常備した物資



延べ378名のボランティアが参加



65のニーズマッチングを完了

特別なニーズを持つ避難者と専門団体や専門物資をマッチング



避難所	避難所エリア	エリアマネージャー	提供種別	ニーズ発生日	ニーズ名	ニーズ内容	マッチング先	何を提供したか
A	松島町	青木	人員支援	4/15	精神障がい者の移送ボランティア	・移送ボランティア 精神障害の姉弟が通院できていないため、移送のボランティアが必要。	個人ボランティア：移送ボランティア橋本さん	移送ボランティアによって通院。その後、精神障害者支援NPO法人Switchにマッチング完了。東松島市の保健師を含めて継続的な支援体制を構築。
B	石巻市	坂井	人員支援	4/6	ADHDの3歳女児対応	ADHDの3歳女児がいる。多動で夜叫等があり、周囲の人が困っている。 現在は知っている子供だからと大目に見ているが、このままの状態だと、周囲が我慢の限界をむかえそうである。	発達障害支援系NPO：みやぎ発達障害サポートネット	認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット伊藤あずささんより紹介された発達障害の子ども支援専門家らのグループが避難所を訪問。ADHDでなく自閉症の診断があると判明。母親がストレスから育児放棄気味であることが課題とわかり、自閉症児に対応するサポートを継続することになった。
C	石巻市	稲葉	人員支援	4/12	ストマ(人工肛門)の要望	要介護者1名がストマを付けている。しかし、震災後、該当者のサイズにあう備品のストックが残りわずかである。現在は、サイズの合わないものを介護人が自分で調整して使用している。津波に流されたストマの備品を回収したが、衛生上利用は避けたい。	福祉関係NPO：共同支援ネットワーク（事務局：CLC）	ストマの型番を聞いたのち、CLCにつないでストマの手配と看護師の派遣を依頼。16日にCLCの看護師をともない、ストマと清浄綿、専用はさみを届けた。看護師が衛生状況など確認、巡回していた保健師のチームに報告を依頼、また、東海大学医学部の医療チーム（石巻赤十字と連携）にも伝え、今後のフォロー体制も確立された。
D	石巻市	稲葉	人員支援	4/28	風邪をこじらせて寝たきりになり、周辺への拡散の危険あり	3日前に熱が出て、体が動かさずにいたきりの方（男性52歳、のどの痛みを訴えている。共に生活している方にもうつっていて拡散する可能性あり。周辺にも体調を崩している方が数名いる。	つなプロ医療班	避難所管理者に詳細確認後、日赤石巻・DMAT、周辺開業医、宮城県保健師連絡協議会等に連絡。対応不可。湊小学校の医師の往診は不可。つなプロ・志賀看護師が電話で症状を確認。通常と風邪と考えられるため、仕事を休み安静にするよう連絡。石巻市保健センターとも連絡し情報共有。 翌日つなプロ・志賀看護師が訪問し、熱が下がり、落ち着いていることを確認。手洗い・うがいなどの衛生環境も、問題ないと判断。
E	気仙沼市	川崎	物資支援	4/6	卵アレルギー対応食等の要望	卵アレルギーがひどいので、内容のわからないものを怖くて食べさせられない。 ひどいときはアナフィラキシーショックになったこともある。現在大丈夫そうなのだけ一応3食食べさせている。	企業：ヘルシーハット	アレルギー支援ネットワークよりアレルギーの会全国連絡会宮城県のアレルギー支援対応拠点であるヘルシーハットを紹介してもらい、お母さんの電話番号を伝え、アレルギー対応食を届けてもらった。また気仙沼市役所に物資があるという情報も提供。
F	気仙沼市	川崎	物資支援	4/13	日本語がわからない中国人	日中辞典4冊。	つなプロ	辞書や指さし会話帳を数種類本部で手配し、気仙沼AMが現地に持参。

合計65のニーズへのマッチングが完了



対象		主なニーズ(数)	つないだ対象(数)	提供内容(数)
全員共通		日用品(5件)、ライト(4件)、トイレ(3件)、医療機器(2件)、医療支援(2件)、衣料品(2件)、衛生用品(2件)、食料品(2件)、寝具(2件)、雨具(1件)、医療用品(1件)、衛生管理支援(1件)、おもちゃ(1件)、学用品・文房具(1件)、身体のケア(1件)、靴(1件)、健康管理用品(1件)、清掃用品(1件)、調理器具(1件)、通信機器(1件)、電化製品(1件)、ペット用品(1件)	つなプロ物資(15件)、物資支援系NPO(13件)、個人ボランティア(3件)、医療関係団体(2件)、コーディネート系NPO(1件)、行政機関(1件)、ペット支援NPO(1件)、企業(1件)	物資支援(30件)、人員支援(4件)、情報支援(3件)
少数者	高齢者	トイレ(10件)、医療支援(3件)、移動支援(3件)、衛生用品(3件)、介護支援(2件)、介護用品(2件)、食料品(1件)、日用品(1件)、寝具(1件)、健康管理用品(1件)	つなプロ(8件)、行政機関(5件)、介護支援系NPO(4件)、看護系NPO(3件)、社会福祉協議会(2件)、移動支援系NPO(1件)、コーディネート団体(1件)、物資支援系NPO(1件)、アート系NPO(1件)、高齢者支援系NPO(1件)	物資支援(11件)、人員支援(10件)、情報支援(6件)
	障害者	身体障害者(9件)、精神障害者(4件)、聴覚障害者(3件)、視覚障害者(1件)、発達障害者(1件)、知的障害者(1件)、パニック障害者(1件)	行政機関(11件)、聴覚障害者系NPO(3件)、個人ボランティア(2件)、視覚障害者支援系NPO(1件)、つなプロ(1件)、看護系NPO(1件)、社会福祉協議会(1件)	情報支援(10件)、人員支援(6件)、物資支援(4件)
	子ども	赤ちゃん用品(6件)、食料品(5件)、健康管理用品(1件)、虐待対応(1件)	子ども支援系NPO(6件)、つなプロ(4件)、行政機関(1件)、物資支援系NPO(1件)、母子支援系NPO(1件)	物資支援(12件)、情報支援(1件)
	患者	医療支援(2件)、心のケア(2件)、介護支援(1件)	行政機関(2件)、心のケア系NPO(1件)、福祉支援系NPO(1件)、つなプロ(1件)	人員支援(4件)、情報支援(1件)
	アレルギー	食料品(3件)、スキンケア用品(1件)	アレルギー系NPO(2件)、企業(2件)	物資支援(4件)
	外国人	辞書(1件)	つなプロ物資(1件)	物資支援(1件)

多賀城市と市内の避難者全員を対象に合同アンケートを実施



	総避難者	配布数		回答者数		対総避難者数
避難所A	430	338	78.6%	189	55.9%	44.0%
避難所B	30	20	66.7%	15	75.0%	50.0%
避難所C	90	80	88.9%	27	33.8%	30.0%
避難所D	450	368	81.8%	198	53.8%	44.0%
不明				3		
	1,000	806	80.6%	432	53.6%	43.2%

○今回のアンケートは 総避難者に対し、80.6%の方にアンケート調査票を配布し、配布したアンケート調査票のうち、53.6%の方より回答を受けた。
 ○それは、総避難者数の、43.2%から回答を受けたことになる。
 ○総避難者は、調査票を配布した4月28日時点の人数である。

1. 概要

■調査主体

: 多賀城市
 : 被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

■調査企画実施

: 被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)
 : 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
 (多賀城市市民活動サポートセンター事務局)

2. 調査

■多賀城市内4か所の避難所の避難者全員へ、文書を通じたアンケート調査。

■調査票回答者は高校生以上の全員を対象とする。

■中学生以下の子どもの状況については、その保護者からの回答内容によって把握する。

3. 配布方法

■つなプロスタッフと多賀城市市民活動サポートセンタースタッフが、4月28日(木)・29日(金)夕食の配布時刻(17:00~21:00)に合わせ、調査票を避難者に個別に配布する。

アンケート結果分析結果の速報

(※詳細は調査結果報告書を公開する予定)

<分析結果から見えてくる課題>

- ・高齢者が多く、不眠、運動不足、栄養摂取状態の悪化が見られる
- ・自宅は全壊ではない避難者もあり、避難者の背景は多様
- ・仕事への意欲は「健康」「住まい」に関する不安が軽減されてから高まる
- ・家族・地域コミュニティの重要性
- ・心のケアやアレルギーなど専門対応が必要な避難者も

<考えられる対応策(要点)>

- ①避難所を食事内容や生活様式「高齢者対応」に
- ②住まい相談のワンストップ化
- ③仮設住宅入居前交流事業の実施
- ④自宅避難者への専門家派遣

専門サービスを有する団体・企業との会議を東京・関西で合計10回開催、ニーズを共有し「つなぐ先」として準備



【東京会議】

回	実施日	参加人数	参加団体	会議の概要
1	3/29	19	16	つなプロの概要説明、各団体の自己紹介と検討している支援の共有等。
2	4/1	12	10	アセスメントの最新状況について共有。参の各団体による支援活動の状況や課題についての意見交換。中長期的な支援に求められる組み立てについての討議。
3	4/8	15	12	
4	4/12	8	6	
5	4/15	20	12	
6	4/21	16	13	つなプロの今後の活動方針についての説明。今後の支援について参加者を交えた議論。

<参加団体>

アースデーマネーアソシエーション/(公社)アスリートソサエティ/(特)アトピッ子地球の子ネットワーク/andu amet/(株)ウインローダー/(特)Wel's新木場/(特)MSキャビン/(特)おた市民活動推進機構/(特)東京都自閉症協会/NPOかわせみ/(特)キッズドア/(特)グレースケア機構/ケアプロ(株)/(特)CRファクトリー/シユアールグループ/(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会/ソークングループ/(株)ソシオエンジンアソシエイツ/ソシモプロデューサー/ソフトバンク(株)/(特)ちば市民活動・市民事業サポートクラブ/東京都助産師会/(特)日本IDDMネットワーク/(公社)日本発達障害ネットワーク/日本プライマリ・ケア連合学会東日本大震災支援プロジェクト/(特)パブリックリソースセンター/東日本大震災被災者支援ネットワークちば/富士通(株)/(特)ふわり/(株)マロバス/在宅医療 祐ホームクリニック

【関西会議】

回	実施日	参加人数	参加団体	会議の概要
1	4/3	23	17	つなプロの概要説明、各団体の自己紹介と検討している支援の共有等。
2	4/13	26	21	アセスメント分析の共有。各団体が支援を考える際のポイントの説明等。
3	4/21	15	10	
4	5/6	12	10	つなプロの今後の活動方針についての説明。今後の関西からの支援について参加者を交えた議論。

<参加団体>

アレルギーネットワーク京都ぴいちゃんねっと/SIOネットワーク/應典院寺町倶楽部/大阪ボランティア協会/NPO法人京都海外協力協会/NPO法人参画プラネット/NPO法人サンフェイス/シチズンシップ共育企画/市民活動センター神戸/NPO法人しやらく/株式会社出藍社/NPO法人生涯学習サポート兵庫/積水ハウス株式会社/NPO法人ソーシャル・デザイン・ファンド/ダイバーシティ研究所/NPO法人タッチケア支援センター/NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会/NPO法人多文化共生リソースセンター東海/NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス/NPO法人テラ・ルネッサンス/NPO法人トイボックス・スマイルファクトリー/日本患者学会/NPO法人パーキンソン病支援センター/ひょうごんテック/株式会社フェリシモ/株式会社福市/NPO法人ブレーションヒューマニティー/NPO法人み・らいず/Live on/わかやまNPOセンター



ご関係者・ご協力いただいた方からつなプロへのフィードバック

・多賀城市総務部地域コミュニティ課 片山達也様（協働でアンケート調査を実施）

最初に「つなプロ」のお話をうかがったのは、まだ市内10カ所に4,000名を超える方々が避難所生活をしている時で、避難者のニーズ、特になかなか見えないニーズにどのように対応していったらよいかについて、途方に暮れていた時でした。「つなプロ」のお話をうかがって、早速詳細説明を受け、その場で支援を受けることを決定しました。驚いたのは、アンケート結果の速報の段階で判明した「対応がすぐにでも必要な方」に対して、早急に手配するなど、その迅速さです。いまだ避難している方々は、本当にさまざまな問題を抱えており、行政だけの対応は大変困難なことから、手の届きにくい所に手をさしのべていただける「つなプロ」の御支援に大変感謝している次第です。

・チーム神戸 代表 金田真須美様（石巻市内の避難所で連携）

災害現場における諸問題を洗い出し、それぞれに適した支援先を見つけ繋げると言うのは最良のコーディネート手法だと感じます。現場での最良コーディネートを見出すためにも、情報量とその内容についての告知スタイルを確立してもらえればありがたいです。期待しています！

・輪王寺 住職 日置道隆様（県南支部の宿泊場所として提供）

1ヶ月間本当に御苦労さんでした。被災地各地では御活躍のことだったと推測します。つなプロの皆さんのおかげでどれだけの方々が助けられたことでしょうか。皆さん自身が良い経験を積み、それがさらに被災者の力に繋がる。今回のすばらしい経験を、次は是非復興のために尽力していただきたい。若い君達がビジョンをもって、立ち止まらず、諦めず、歩み続ければ、必ず希望の光が輝くはず。共に未来に向かって頑張りましょう！！

・活牛寺 住職 菅原公宇様（県南支部の宿泊場所として提供）

3月28日つなプロ来た。被災地にいけなくても宿泊場所を提供することによって被災者の役に立つことができることは嬉しい。5月1日つなプロ引き上げる。差し入れたコーヒーが、ビンにほとんど残っていた。日中の活動で疲れて寝るだけが精一杯だったのだろう。本当にご苦労様でした。この活動を、今後予想される東海、南海、東南海の震災に役立ててほしい。

・香林寺 武山 正廣(雲童)様（県北支部の宿泊場所として提供）

つなプロがやっていた「つなぐ」ということは非常に重要なことです。「縁」です。個人ではできないことがあります。つながるということ、関わりを持っていくことが必要です。「縁」をつないでいってください。

・日本自動車ジャーナリスト協会様（アセスメント活動に際する車のドライバーをボランティアとして派遣）

日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ <http://www.ajaj.gr.jp/>)のメンバーを、「つなプロ」へドライバーとして派遣する窓口を担当しました。参加したメンバーは、延べ数十になりますが、みな様に「協力できてよかった」と口にします。「運転に自信がある」という私達の特徴を的確に引き出していただけたということでしょう。ニーズをコーディネートするのが「つなプロ」の目的であるように、私達の「ボランティアに参加したい」というニーズをうまく拾っていただけたことに感謝します。(鈴木様)

わずかの間でしたが活動をお手伝いさせて頂き、つなプロの皆さんを非常に頼もしく感じました。つなプロの活動はとてもハートフルでありながら、そのシステムは論理的かつ効率的でした。支援のために、求められているものを正確に把握し、必要な行動を判断する。その冷静さは、日頃から困っている方々への支援の研鑽なくしては得られないものと痛感しました。にわかボランティアの私は、日頃の意識の低さを大きく反省し、沢山の 教示を下された皆様に感謝しています。(三浦様)

・環境と子どもを考える会 代表 兼子佳恵様(県北支部でのドライバー協力・石巻市内での地元リーダー候補)

震災によって、仕事がなくなった中、つなプロから声がかかり、避難所を訪問する運転手をしました。生活の支えだけではなく、車中でのボランティアさんとの会話は、私たちが勇気づけてくれました。今後も何らかの形でつながってほしいと思います。

・本家かまどや定禅寺通店様（県南支部・本部のお弁当配達）

当店としては経験のない膨大な受注量でしたが、災害復興支援という尊い仕事のお手伝いということで思い切ってお引き受けさせて頂きました。とても貴重な経験をさせて頂いたと感謝しています。既存メニューではなく栄養バランスを考慮した特別献立を考えました。果たして満足して頂いているのか不安でしたが、常に誠実に対応して下さった皆さんに救われた思いです。今後も被災地の復興にご尽力される事を宮城県民として期待します。

5月9日から「つなプロ2.0」として活動を開始。避難所を中心としたコミュニティのアセスメントをしながら地元への引き継ぎ体制を構築。



つなプロでは、宮城県内の避難所の巡回訪問とアセスメントを5週にわたって続ける中で、5月1日に幹事会(第3回)を開催し、今後の活動方針を、下記の通り決めました。

- 【1】3月28日から5月1日まで、5週にわたって実施した宮城県内のほぼすべての避難所への巡回訪問とアセスメント、伺ったニーズへのつなぎ(マッチング)の経過・結果を集計して発信する。
- 【2】5月9日から6月末までの2か月間については、避難所の巡回訪問とアセスメントは終了し、宮城県内(おもに北部)の10か所程度の避難所などを拠点として、その運営をお手伝いしながら、ニーズの把握と、地域の方々との接点づくりを進め、避難所周辺の自宅避難者の方々のニーズの把握にも努める。
- 【3】実施体制として、各避難所を管理・運営する地域のリーダーのお手伝い役として「拠点リーダー補佐」(各1名、基本期間は3ヶ月程度)を配置。
各避難所には同時にボランティア(各2名程度、基本期間は2週間単位)も送り、活動を補助する。
拠点リーダー補佐もボランティアも、可能な限り、地元在住や出身の方に担っていただけるよう働きかけ、募集や人選は地元の団体を中心に進める。
→5月中は、これまで活動してきた県外からのメンバーが継続参加しつつ、避難所などを拠点とした活動体制を整える。
→6月以降は、地元の団体や個人(県外からのUターン・Iターン者を含む)に体制を引き継ぐ。
- 【4】高齢者・障害者への介助・ケアなどのニーズに対しては、現地でのつなぎ(マッチング)を強化できるよう、専門性を持つ団体による直接サービス増をめざす。
同時に、地元の団体によるニーズへの対応力向上を促すために、地元の団体と県外のNPOとをつなぎ、人手やノウハウの提供による支援を本格稼働させていく。
- 【5】地元主導による復興を応援するために「仕事づくり」に協力する。
「仕事」のテーマは、地域ニーズや資源によって異なるが、外部の資源(人、資金ノウハウ等)とつなぐことで、復興を加速させる。
第一弾として、石巻での訪問介護事業所の開設を支援する。

アセスメント情報によるデータ分析

ボランティアがアセスメントシートに基づき調査したデータは、その日のうちに富士通より無償提供されたクラウドシステムに入力され、現地本部事務所に常駐するマッチングチームによってニーズの対応がなされています。また、一週間ごとにとりまとめたデータをもとに、RCF災害支援チームが分析を実施、ウェブサイトで公開しています。

- 詳細/ウェブサイト <http://rcf-sos.seesaa.net/>

また、つなプロのブログでも、各週の分析レポートを掲載しています。

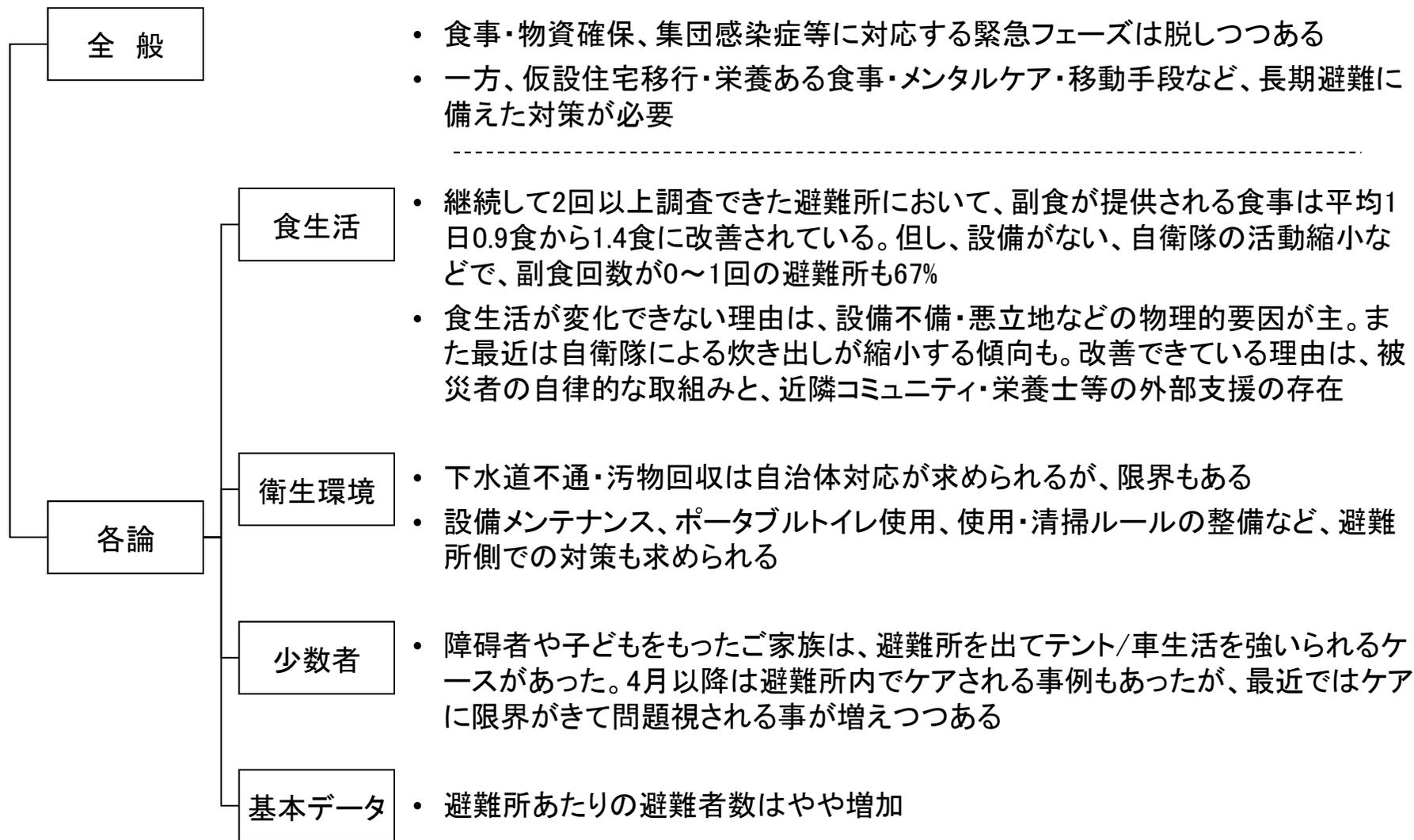
この分析は、特定の避難所や自治体の状況や対応について指摘するのではなく、あくまで、少数者のニーズを把握し、それに対応する「つなぎ」と、全体的な傾向の理解の促進のために行っているものです。

- 1・2週目 <http://blog.canpan.info/tsunapro/archive/36>
- 3週目 <http://blog.canpan.info/tsunapro/archive/50>
- 4週目 <http://blog.canpan.info/tsunapro/archive/57>
- 5週目 <http://blog.canpan.info/tsunapro/archive/58>

次ページ以降では、5週目のレポートより一部抜粋して、分析結果をご紹介します。

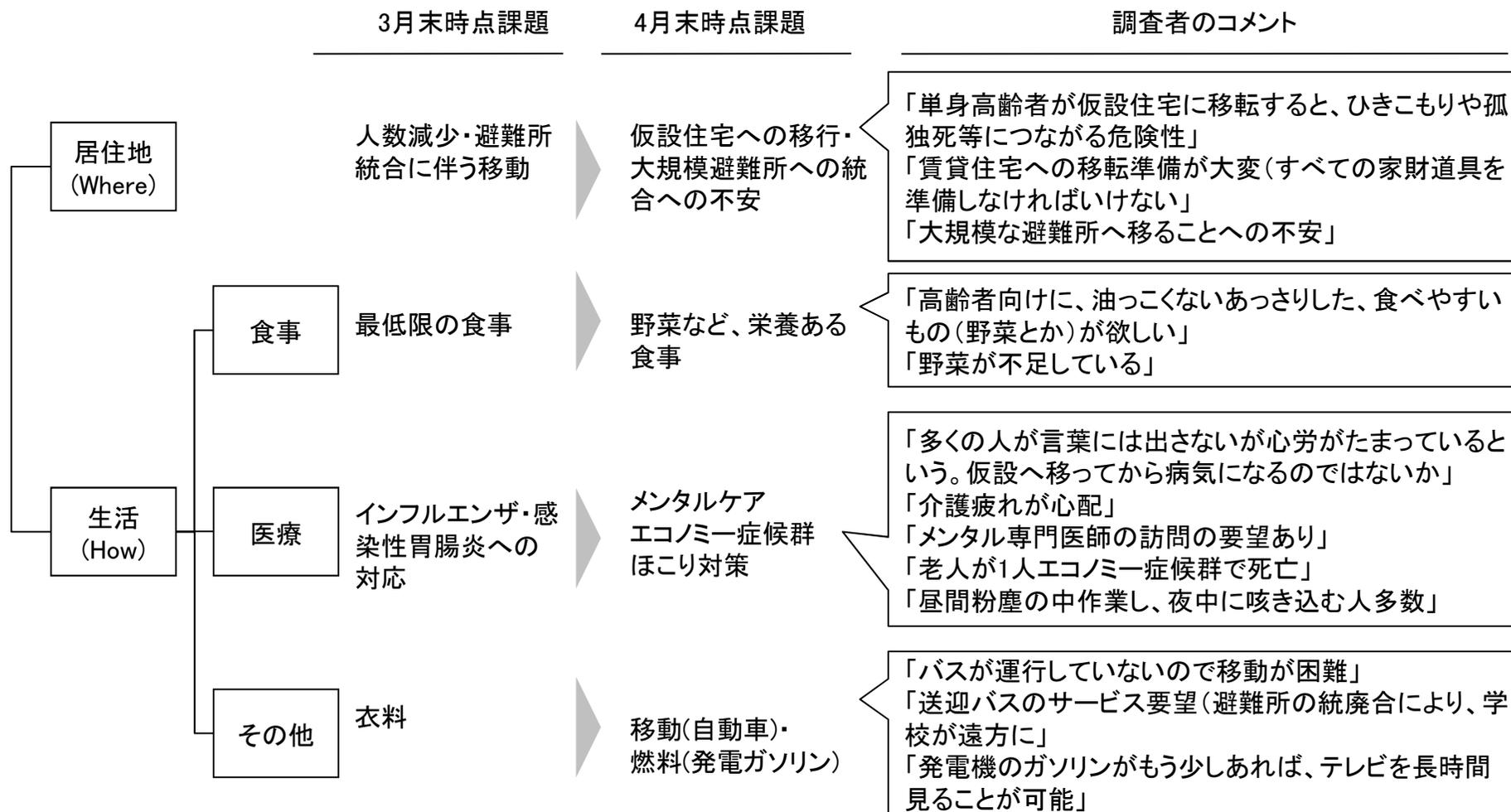
なお、本分析は、第5週(4/25～5/1)分における集計です。但し一部分はデータ数確保のため、第1～4週分も含めた分析となっています。各項目ごとに、アセスメントできた避難所に限定して分析は行われています。

要約 ～食事・衛生等での課題を残したまま仮設住宅段階へ



課題総論 ～緊急段階を脱するも、避難生活長期化に未対応

- ・ 食事・物資確保、集団感染症等に対応する緊急フェーズは脱しつつある
- ・ 一方、仮設住宅移行・栄養ある食事・メンタルケア・移動手段など、長期避難に備えた対策が必要



⇒避難所マネジメント問題(人不足・管理面への不満、住民間の争いなど)は継続発生

(参考)基本データ ～引き続き仮設住宅段階前の小康状態

- 避難所あたりの総数はやや増加

		回答 避難所数*	該当人数 小計*	一避難所あ たり人数 (4/30調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/23調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/16調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/9調査)	【参考】一避 難所あたり人 数(4/2調査)
基本数	避難者総数	138	15563	112.8	96.5	99.4	102.7	168.4
	過去一週間の入居者	15	35	2.3	1.5	45.7	41.4	102.7
	避難所外就寝者数	17	1300	76.5	27.2	53.5	36.3	84.9
	退去者数	23	1804	78.4	6.6	58.9	152.8	365.3
	自宅に戻った人数	12	891	74.3	40.5	29.3	27.9	128.1
	被災地外への転居数	2	0	n/a	0	4.1	14.4	8.6
	病院・福祉避難所への移動人数	7	27	3.9	0.2	0.3	0.8	2.6
年齢別	新生児 0歳児	47	14	0.3	0.3	0.3	0.2	0.6
	幼児 1～未就学	49	91	1.9	1.6	1.3	1.4	2.6
	子供 小学生	56	336	6.0	3.9	5.2	3.8	7.4
	12～18歳	37	236	6.4	1.6	3.4	3.0	5.4
	高齢者 65歳以上	42	1469	35.0	24.8	41.6	30.6	56.6
配慮者	妊婦	48	7	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1
	要介護者	33	29	0.9	0.3	2.1	2.5	2.2
	アレルギー患者	20	5	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
	その他要配慮数	16	5	0.3	0.6	0.3	0.5	0.1
	外国人	35	17	0.5	0.0	0.2	0.1	0.7
	対応必要な信仰	11	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害	障害者総数	41	40	1.0	0.1	1.2	1.0	2.5
	肢体不自由	29	10	0.3	0.1	0.6	1.0	1.7
	聴覚障害	27	7	0.3	0	0.1	0.1	1.1
	視覚障害	27	3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2
	知的精神障害	30	19	0.6	0.2	0.4	0.6	1.4
	自閉症・発達障害	22	2	0.1	0	0.1	0.1	0.3

・避難所により把握できたデータは異なる。数字は把握できた避難所数と、その避難所における該当小計、この二つの数字から、一避難所あたりの該当数を試算
資料: つなプロアセスメント調査(4月18日～24日)

ご協力・ご協賛下さった皆さま、ありがとうございました



■ご協賛(50音順)

株式会社エイチ・アイ・エス様

ボランティアの移動(東京-仙台間の大型バス)のご協力

オムロンヘルスケア株式会社様

避難者の健康調査のための体重計200個の寄贈

公益財団法人京都地域創造基金様

スペシャルサポートネット関西への助成を通じて本プロジェクトの活動へ資金提供

震災復興リーダー支援プロジェクト様

本プロジェクトの活動への資金提供

ソニーマーケティング株式会社様

避難所調査での記録用デジタルカメラ、およびデータ入力用のノートパソコンの貸与

ソフトバンクモバイル株式会社様

避難所調査データ入力およびスタッフ間連絡のための携帯電話・iphoneの貸与

日立製作所株式会社様

現地本部(仙台市)および県北支部(登米市)へのプロジェクターの提供

株式会社西粟倉・森の学校様

現地本部への無垢床タイルの寄贈

富士通株式会社様

避難所調査データ管理データベースの構築・運用支援

■現地活動へのご協力(50音順)

活牛寺様

県南・本部ボランティア宿泊場所のご提供

香林寺様

県北支部拠点・ボランティア宿泊場所のご提供

輪王寺様

県南・本部ボランティア宿泊場所のご提供

日本自動車ジャーナリスト協会様

ドライバーボランティアとしてのご参画

グローバルベンチャーハビタット大阪様

関西での活動拠点とボランティア説明会会場のご提供

NPO法人四条京町家様

関西でのボランティア説明会会場のご提供

ブラザー工業株式会社様

現地本部(仙台市)および県北支部(登米市)へのプリンターの寄贈

実施体制図

幹事会	
代表幹事: 紅邑(せんだい・みやぎNPOセンター)[中間支援組織] 川北(IIHOE) [中間支援組織] 田村(ダイバーシティ研究所(DECO))[専門NPO]	幹事: 能島(スペシャルサポートネット関西) [中間支援組織] 町井(日本財団)[助成機関] 山内(ETIC) [中間支援組織]
事務局長: 赤澤(スペシャルサポートネット関西) 事務局: 星野(IIHOE)	

仙台本部
本部長: 佐野(株祭) スタッフ: マッチングチーム: 河野(ETIC)、鈴木(祐)、池上 事務局: 奥野、竹森

東京事務局
ETIC. かものはしプロジェクト 統括: 山内 統括補佐: 辰巳 ボランティア募集: 山元、浜千代

関西事務局
スペシャルサポートネット関西※ 代表: 能島 事務局長: 赤澤 事務局: 小林、星野 (ロジ支援、ボラ募集)

<u>仙台市・多賀城・東松島エリア</u> 支部長: 佐野が兼任 スタッフ: 青木、小林、根本 事務局: 仙台本部事務局が兼任
--

<u>石巻・牡鹿・南三陸エリア</u> 支部長: 河内(み・らいず)、稲葉 スタッフ: 岩本、竹内、内野、友廣 事務局: 渡部
--

<u>気仙沼エリア</u> 支部長: 岩切(夢職人)・川崎 スタッフ: 坂井、山中、近藤、小野寺 事務局: 鎌田

※ブレインヒューマニティ、み・らいず、JAE、JAE、ユースビジョン他、関西のNPO等で構成

常時、約20名のスタッフが仙台本部および県北支部に常駐、活動に際する企画・準備・マネジメントを実施。
 仙台本部: 本部長、県南エリアマネージャー、マッチングチーム、事務局
 県北支部: 県北エリアマネージャー、事務局